

Touch The Future 2025夏の医療体験 津話野共存病院

1. 活動時期 2025年8月16日～23日

高校2年 松本 彩芽

2. 活動の概要 <https://t-t-f.org/>

この活動は地方の病院に実際に行って、1週間自炊しながらの生活と共に、毎日一日中病院で医療現場と触れあうことができる活動です。事前にZoomで数回だけですが、一緒に活動するメンバーとの顔合わせや地域医療について学武器甲斐があります。そして、実際の現地では医療体験といっても医療行為は私たちにはできないのですが、先妻が診察しているのを先生の隣で見ているだけではなくて、先生の診察が終わったら電子カルテを見せてもらってこういう情報を見てこういう風に診察しているということだったり、電子カルテの記入を見させてもらったりしました。また担当患者さんがそれぞれについているので自分の担当患者さんと積極的なコミュニケーションをしたりして、少しでも自分の担当患者さんを幸せにするにはどうしたら良いのかという難しい疑問と常に向き合っていました。自分の身近にはあまりなかった訪問診療や訪問看護などへの立ち会いなどもさせていただいたり、これらの活動が終わったら、1日の最後には必ず病院の先生方に活動報告をしたり、先生方のカンファレンスに参加させていただいたりしました。そして最終日にはこの1週間の活動を通して学んだことであったり、患者さんを幸せにするにはどうしたら良いと考えたのかなどの発表を先生方の前で行いました。全ての活動を通して、普通の病院ではなく地域医療ということがあって、少子高齢化の現実との衝突もありましたが、地域の人たちの優しさに触れて、いろんな面から医療現場を見ることができて、すごく貴重な体験だったなと思っています。

3. 感想

この活動を通して私はすごくあっという間だったなと思いました。毎日やるが多かったのも忙しかったのも事実なのですが、すべての活動を通して学ぶことが多くて刺激的な1週間でした。特に訪問診療や訪問看護に訪れたときに、高齢者が弱ってしまった体での生活を1人でしなければいけないというのがいかに大変なのかということだったり、介護する人たちがどれほど大変なのかという少子高齢化ならではの問題に対して自分の理解が浅かったなと感じさせられました。また、医者という職業に対して医療行為をできる人たちですごく大変というイメージが強かったのですが、先生方が誰も大変と感じていらっしやなくて、みなさんやりがいを感じていてすごく楽しそうにしているのに驚いたのをよく覚えています。

今回の活動の中で1番大変だったのは、私は自分の担当患者さんと向き合う上で、最初患者さんの体調がすぐれなくてなかなかお話の時間がとれなくて、ただでさえ1週間しかない中で自分に何が出来るのだろうと考えさせられていたのですが、さらにその時間が短くなってしまって、他の子達は患者さんと仲良くなっている中ですごく困ったし焦っていました。そこで患者さんと話すはずの時間を使って患者さんと1番距離の近い看護師さんなどのいろんな方からお話を聞いておいて、次患者さんと話せる時に少しでも親身にお話しできるように患者さんの情報をたくさん集めました。なので最終日には別れを惜しんでくれるくらい仲良くなれたし、一緒にお話している時すごく楽しそうにいらっしやったのですごく嬉しかったです。

今回私が参加した津和野共存病院はすごくチームワークがすごくて、医師と他の看護師や検査技師などの距離が近くて、いい意味で医師が遠い存在じゃなくて、まめなコミュニケーションで現場が回っていてすごくいい現場だなと思いました。

4. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

医学部を目指している子はもちろん、医師の道に行くか迷ってる子も参加してみる価値はすごくあると思います。医療の現実を知れると思うし、すごく貴重な体験になると思います！

